

ヤマメ

この水そうに展示しているヤマメは、北海道立栽培水産試験場（室蘭市）からもらった、2020年の秋生まれの魚です。2021年5月から、朝市ミニ水族館でくらしています。



どんな魚？

ヤマメは川で生まれ、そのまま1年ほど過ごします。その後、一部は川を下り海に出て、サクラマスとなります。川に残ってくらす場合は、ずっと

ヤマメのままで、3年で体長30cmくらいに成長します。成熟すると秋に産卵し、さらに翌年も産卵します。北海道では「ヤマベ」とも呼ばれています。

もよう（パーマーク）に注目！

ヤマメは、体に小判のかたちをしたもよう（パーマーク）があります。ところが、サクラマスになるヤマメは、川を下る前にパーマークが消え、銀色になります。これを銀化といいます。川の水から海の水になれる準備をするのです。

CHECK! 水そうの中にも、銀化し始めたヤマメがいます。見つけられるかな？



写真：Apple2000 / CC BY 3.0

海で大きく育ちサクラマスに！

北海道庁が名付け親！

海に出たヤマメは、日本海やオホーツク海で1年間くらし、体長60cmほどのサクラマスへと成長します。北海道では、5月ごろに生まれた川にもどり、秋に産卵した後一生を終えます。「サクラマス」という名前の由来は、産卵前に体がさくら色になるから、桜の季節に川にもどってくるからなど、諸説あります。



反対側の水そうにサクラマスがいるよ！